

2020年度 第5回森と水の源流館授業づくりセミナー・授業実践報告会 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021年2月20日(土)9時30分～12時30分
- ◇会場 森と水の源流館川上村劇場とZoomによるオンラインのハイブリッド方式
- ◇参加者数 46名
- ◇内容 授業実践報告

1. ESD実践のポイント (大牟田市立吉野小学校：島先生)

①教科と総合をつなげる

内容をつなげる：合科、発展、連続

方法をつなげる：補完、競合

②教師の手立て

- ・空間的・時間的比較場面をもつことで相対化を促す
- ・人の営みにふれさせ、人に学ぶ場面を設定する
- ・ライフスタイルの問い直しを迫り、行動化を促す

③目標に関わる事前・事後のアンケートで子どもの変容を客観的に捉える



2. 生き物マップをつくろう (橿原市立耳成南小学校・川崎先生) 2年生生活科の授業実践

①導入の工夫 虫の鳴き声クイズ

②中心発問 虫はどこにいるのか → 昆虫採集の動機付け

古山さん(専門家)による観察カードの指導 → 外部講師とのつながりの活用

古山さんからは一人一人の観察カードにコメントを付けていただく

図鑑を用いた調べ学習

③表現・発信：昆虫館と源流館と学校をオンラインでつないだ

→コロナであきらめるのではなく、できることを考える

子どもの観察力が飛躍的に向上し、図工作品にも生かされている

3年生の理科につながる学習

3. つながる総合 (奈良市立平城小学校・村上先生)

4年生総合的な学習の時間 秋篠川「たんけん・はっけん・ほっとけん」

①他教科とのつながり：国語「のはらうた」を用いて人以外のものからの視点の獲得

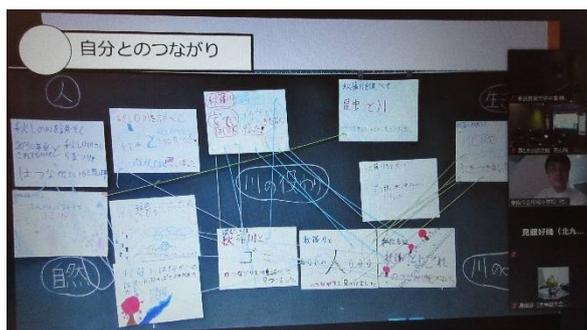
②人物とのつながり：古山さん(専門家)との出会い「あこがれ」・人から学ぶ意義

③生き物のつながり：生物指標調査より、生き物同士のつながりを糸でつないで可視化する。

④自分とのつながり：生き物同士のつながりの中心に自分を位置づけてみる「しあ環せの糸」：

SDGsの目的も「しあわせ」になること

⑤未来とのつながり：つくりたい未来を考え、現在のライフスタイルの見直しへ



4. 千歳の伝統とわたし（山形市立千歳小学校・阿部先生）

4年生総合的な学習の時間：伝統行事の意義を多面的に捉えさせる

「田植え踊り」・・・「なぜ伝承されているのだろうか」

- ・ 予祝一神楽 ききんととの関係：SDGsの目標2との関連
- ・ 雨乞い大明神 当時の人々の気候変動への対策ともとれる。SDGsの目標13との関連
現代の私たちにはどのようなやり方があるだろうか

◇単に続けていくためではなく、伝統行事の意味を考えることで、

- ①地域への愛着を育てる
- ②SDGsを介して地域の課題と世界の課題をつなげることで視野を広げる
→ 地域社会の担い手を育成する。

5. 川上の自ら始まる 紀ノ川の旅 水のつながり、人のつながり

（和歌山市立雑賀小学校・赤松先生） 4年生総合的な学習の時間

川上村から届いた水のペットボトルの絵に着目：どうして木の絵が描かれているのか

川上村について調べることで森と水が関係していることに気づく

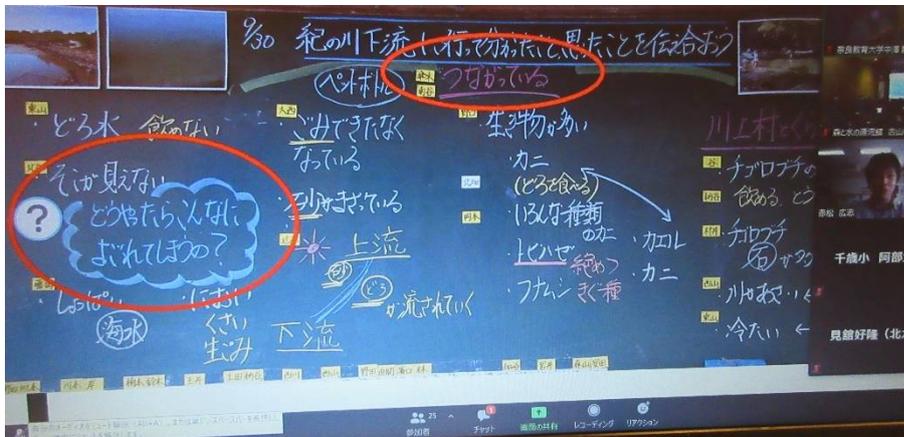
「水の旅のはなし」 松谷さん、尾上さんとの出会い

→ しかし、川上村の川にもゴミが捨てられている事実

それは流れてやがて海洋に 海洋漂着ゴミ調査の実施

「いいこと（水を守ること）」も「悪いこと（ゴミのポイ捨て）」も「人」でつながっている

「つながること」の大切さに気づく：様々なことが自分とつながっている



6. 高分子化合物（九里学園高等学校：川合先生）

高等学校化学の実践

○プラスチックに着目：とても便利なもの、分解しづらい、燃やすとガスが発生する

便利であるがゆえに膨大な使用量

分解しづらいがゆえに、蓄積量が膨大に

ガスが発生するので処分が困難

▼海洋プラスチックゴミの問題

海洋生物の誤飲・誤食、からまりなどだけでなく、マイクロプラスチックになることで、生物濃縮が生じ、いずれは人間の健康被害をもたらす可能性がある。

◎有用であるがリスクもある

生分解性プラスチックをつくる きれいにつくるができない
→ 生分解性プラスチックがすべてを解決してくれるわけでもない
日常生活における生徒の変容を促す

7. 「食」と「環境」(川上村立川上小学校・辻本先生)

「コロナと食問題」5年生総合的な学習の時間

①コロナ禍による影響を出し合う：客観的事実に基づく学習

(家族への聞き取り調査)

・お店の品揃えが減っている、・欠品(マスクなど)がつづいていた

(お店へのインタビュー)

・マスクや体温計がよく売れた。

・村内で買う人が増えたので客は増えているが、村外からの客は減った

(栄養職員へのインタビュー) 給食への影響

・メニューを変更しなければならないときがある。 ・牛乳が変更になった

②コロナ禍で村内の人が困っていることの解決策

「やまいき市」の活性化

・買い物に行けない高齢者宅への配送

・地産地消の促進

・人と人のつながり(やまいき市が来ることを心待ちにする高齢者達)

・村内経済の活性化にも役立っている

◎「やまいき市」の意義を多面的に考えることができた

8. アクティブ+ポジティブによるサステナブル・ラーナーを育てる

(橋本市立あやの台小学校・中谷先生)

年間を通じたボランティア活動「えがこうよ しあわせ色の 大事な未来」

米づくり：おいしいお米には「水」が大切。みんなの健康を支えているのも水の恵み

エコマート：おいしい野菜はおいしい水から

町探検：地域を知ることが地域を好きになる第一歩

ESDで地域課題に挑戦する。地域を大切にする活動に取り組むことでもっと好きに

防災：地域の方と一緒に防災キャンプの体験

パーティーの組み立て、避難所設営、ハザードマップの製作

暗所体験、新聞スリッパづくりなど

スポーツゴミ拾い 地域のためにできることを考えて実行する

◎アクティブ+ポジティブ→サステナブル・ルシンキング→サステナブル・ラーナー

9. みんなが喜ぶ製品を作って販売しよう(山形大学附属特別支援学校・阿部先生)

これまでの木工製品作りと今年度の違い・・・県産材を使おう

○県産材に詳しい人(森林整備課)に電話インタビューをする・GTとして招聘する

・山形市の市有林の状況や森林資源の果たす役割、県産材を使う意義について教わる

○地域の材木店で杉の製材を見学し、県産材を購入する。

○県産材で幼稚園児を対象としたバザーの販売する製品を作る

- ・森づくり推進室に箸の作り方を教わり、治具を借りる。
- ・幼稚園児にちょうどいい箸の長さがあることに気がつく
- ・バザーで販売すると共に、県産材を使う意義を保護者に伝える。

